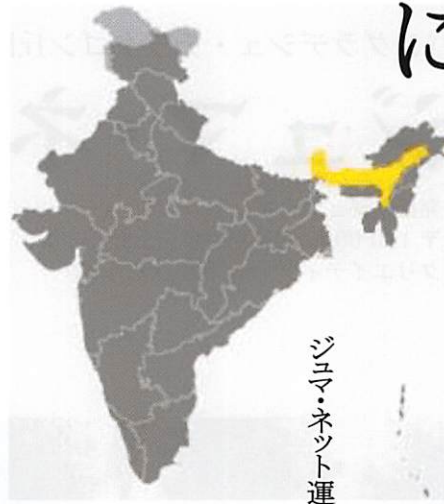


インド・アッサムの 全国市民登録簿から 除外された人々のた めに



ジマ・ネット運営委員 木村真希子

はじめに

2月19日から27日まで、インドのアッサム州に移民排斥の影響と支援の可能性を探る現地調査に行ってきました。アッサムでは不法移民(主にバングラデシュ人)の排斥運動が強く、2013年から全国市民登録簿を更新し、外国人を摘発するための基盤を作

ジャイ基金のメンバーたち



うとしています。

2019年にその更新版の名簿が公開されたのですが、3300万人の申請中、190万人が名簿から漏れており、今後登録されなかった人たちが排斥に直面するのではという危機感を持っています。

今回、バングラデシュ人として排斥されることの多いムスリムの地域で活動する団体を訪問して、実際に外国人と疑われて拘留された人、裁判で係争中の人たちにその状況を聞いてきました。

アッサム州は植民地時代に茶園の開発と、隣接するベンガル地域からの移住が進み、1947年に独立した段階で人口の約半分が植民地時代以降に州外から移住した「よそもの」とみなされる人々でした。その中でも、ベンガル出自のイスラム教徒がバングラデシュ植民地時代の東ベンガル出身の「外国人」とみなされ、嫌がらせを受ける被害が数多く報告されてきました。今回の訪問では、移民出自のムスリムの多いアッサム州西部のバルパタ県で活躍するジャイ基金の人々を訪問し、今までに被害に遭った人々を訪問してきました。

ジャイ基金とブラフマプトラ河岸の西部アッサム州

ジャイ基金はベンガル出自のムスリムの多いブラフマプトラ川流域の地域で活動しています。設立者のアブドゥル・カラム・アザド氏は30代の男性で、2014年あたりからこの地域でのコミュニティ支援を始めました。ブラフマプトラ川の辺りは土壌が柔らかいらしく、毎年川の流れ等の関係で河岸が浸食され、土地が沈みます。一方、削られた土壌は川の真ん中の方に中州(チヨル)ができ、数年経つと耕作できるようになります。

この河岸浸食のため、一時避難してから再度生活を再建する・・・ということが一生の間に何度も起きる人たちがおり、生活や子供たちの教育に大きな影響があります。また、ベンガル出自(植民地時代のベンガル地域、現バングラデシュからの移住した)の人々は「バングラデシュ人」と疑われて検挙されたりいやがらせを受けたりすることも多く、今回の件でもこの地域の人たちが一番多くターゲットになっています。

この地域は全国市民登録簿に名前が掲載されず、今後どのような扱いを受けているの

か、不安を抱える人が多く存在します。また、今までに外国人という疑いをかけられ、外国人審判所で「外国人」と認定された人々も多く存在します。こうした人々の多くは無実の市民ですが、認定後に外国人拘留センターで無期限に拘留されていました。拘留所は刑務所と同じ敷地内にあり、劣悪な環境で食糧も不十分です。心身ともにやみ、拘留後に亡くなる人が後を絶ちません。

「外国人」と認定され、拘留されていた人々の声

まずは、3人の元被拘留者及びその家族にインタビューしました。簡単に概要を記します。

① マミラン・ネサ(40代、女性)

2009年に警察がやってきて逮捕され、そのまま10年間拘留されました。その時には3人の子供がいて、妊娠中でした。お腹の子供は拘留後に流産しました。夫はショックで働けなくなり、精神的に病んでしまっ、自分が釈放される数か月前に亡くなりました。そのため、子どもたちは一番上の女の子



拘留の不当さを訴えるマミラン・ネサ

が面倒を見たり、親戚の家に預けられたり、と苦勞をしてきました。下の子(拘留時3歳)は拘留中に2回しか会うことができず、釈放されて最初に会っても自分のことがわからなかったほです。2019年に最高裁の判決で3年以上拘留された人は釈放となることが決まり、2019年12月に釈放されました。

釈放後も週一回は警察署に行かないといけないのですが、交通費もままならず、負担です。よく眠れず、食欲もありません。夫も失くし、何もかも失くしました。政府にはすべて返してほしいと訴えたいです。今は生計手段がないので、釈放されたときに村の人たちが寄付してくれた食糧で何とか

賄っています

②ナレシユ・コッチ(60代、男性、拘留所で死亡。奥さんにインタビュー)

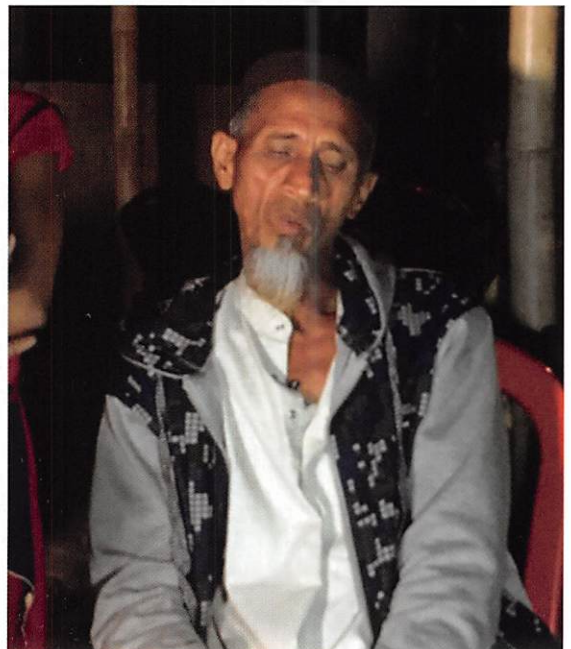
選挙管理委員会に疑わしい投票者(Divoter)として指定されていました。外国人審判所で審判が進行中だったが、全く知らず、2017年に突然逮捕されました。その時も市場に買い物に出かけたと思っていたので、2、3日してから初めて夫が拘留されたことがわかりました。

拘留後しばらくして、2019年に警察がやってきて、病気になるたので会いに来るようにと言いました。看病したけれど、2週間ほど看病したところで亡くなりました。警察が遺体を運んで、火葬のための薪に必要なお金をはらってくれました(家族がお金を持つていないため)。

③アズバール・アリ(60代、男性)

4年前、Divoterということで外国人審判所から呼び出しがかかり、外国人と宣告されました。自分は拘留され、家族が上告して高裁で争いました。それも敗訴となり、息子が妻にその結果を報告した翌朝、妻が

アズバール・アリ



自殺しました。それまでに裁判で50万ルーピー(日本円で約75万円)使っており、妻はもうこれ以上どうにもできないと絶望したのでしよう。

釈放後も体調がよくなり、精神的にも不安定です。息子も一人、母の死がショックで満足に食事がとれなくなりました。今までに裁判費用のため、まだ息子たちは借金を返しており、土地も抵当に入っています。

*

三人とその家族に共通しているのは、心当たりもないのにある日突然外国人審判所から呼び出しがかかったり、事実を知ったとき



建設中の拘留所

にはすでに外国人と宣告されていることです。また、一度誰かが拘留されると裁判の費用や生計手段を稼ぐ人がいなくなるので、家族全体の破滅や離散につながりかねないことでした。拘留されているうちに亡くなったり、夫や妻が精神を病んでしまった、病氣

になった、亡くなったという例が多く、家族単位に影響が出ています。

釈放された後も、精神的、身体的に不調をきたす人が多く、自分で生計を立てられる人はほとんどいません。裁判費用にお金がかかるため、運よく釈放されてもほとんど蓄えがなく、借金が残っているケースが非常に多いです。また、弁護士がきちんと仕事をしていないのでは、と思われる証言も多くなりました。

2019年後半以降に釈放された人が65人にのぼり、拘留の実態や審判のずさんさが明らかになり始めました。現在、拘留所は刑務所内に仮に設置されているものがほとんどです。収容人数を減らすため、政府は新たに10か所の拘留所を建設中です。その一つ、ゴアルパラに建設中の収容所では、約3000人を収容できる施設を多額の資金を投じて建設中でした。

ジャイ基金の活動地域とNRCCによる影響

バルペタ県での最終日にジャイ基金が活動している地域に行つて、地域の人びとの状況を聞いたり、家族がNRCC(全国市民登録簿)

に登録されなかった人の話を聞きました。

ヤシン・アリ(47歳、男性)

妻と上の娘がNRCCに登録されませんでした。女性たちは父親とのつながりを証明する書類がなく、登録されていない例が多いです。NRCCの登録には、今までに7000ルピーほど(約1万円)お金を使いました。家族全員での審査があったので、そのたびにみんなでお金を出かけ、また、書類を整えるためのお金です。ほかの7人の子供は登録されました。いまは政府からの通知待ちです。

自分はNRCC自体は良いことだと思います。ここ(バルペタ県)では土地を持っていないので、グワハティ(アッサム州の州都)でサイクルリキシャを引いています。一日500ルピー稼げるので、30年間そうやって家族を養ってきました。しかし、しばしばいやがらせを受けます。「移民だ」「バングラデシュ人だ」と言われるのです。

NRCCがきちんと終われば、書類で証明されるようになると思いましたが。しかし、妻が登録されていないことはあまりに理不尽だと思います。政府の説明を聞きたいです。妻と娘が登録されていないことがいつも頭に

あり、そのせいで用事があつても遠くに行けません。ある日連れていかれて、拘留されてしまうのではないかと恐れているからです。(拘留された事例はほかにもあるので、それを見聞きしてみんな怖がっているということです。)

今回のことで、教育の大切さがわかりました。自分は教育がないので、書類を出すにも人を雇って確認してもらわないといけません。息子にはきちんとして教育を受けさせたいです。

地域の女性とのミーティング

地域の女性たち10人ほどに来てもらい、この地域の抱える問題について話してもらいました。一番多く出たのは交通の不便さです。この地域は中州なので、乾期の今の時期は車や徒歩でも行けるのですが、4月に雨季が始まると9月くらいまではボートに乗らないと町まで出れません。そのため、教育、それから満足な医療が受けられないことが多く、問題だということです。ボートに乗って街に教育を受けに行くのはお金がかかり、そのために高校、大学に子どもをやるのは非常にお金がかかります。

一通り地域の事情について語ってもらったところ、NRCについて何か困っていることはないかと聞きました。なんと十人中一人の父親がDiverの嫌疑をかけられ、高裁で係争中、一人の義理の父もDiver、もう一人は家族にNRCに登録されなかった人がいるということです。実に十人中、三人が身近な家族に嫌疑をかけられたり登録されなかったりということで、不安を抱え、金銭的な負担を強いられています。ベンガル出自のムスリムの多いこの地域特有の問題が浮かびあがってきました。

ジャイ基金のメンバーとの打ち合わせと

プロジェクトの提案

ジャイ基金とは事前に連絡を取り、NRCで影響を受けた人たちに対して何か支援できないかと打診していたため、私が訪問する前にすでに案がいくつか出ていました。今回の打ち合わせでは、主に3つの分野での支援を打診されました。

①教育支援

NRCによって、この地域の人々は教育の大切さを認識しているそうです。Diver

や警察の外国人検挙は、非識字者の多い地域を狙っています。この地域の人々が逮捕・拘留されても、問題にできず、またNRCの登録でも大変な思いをした人が多いのです。さらに、NRC更新のために駆り出されたのはほとんど教員だったため、子供たちの教育が犠牲になったということです。そのため、ジャイ基金が今まで実施してきたコミュニケーション単位で教育支援をぜひ継続したいということです。また、NRCで何が起きているのか、ぜひ教員たちにトレーニングを受けさせたい。上記のようなことが家庭で起きていて、勉強どころではない子供たちがたくさんいる。そういったことを知らせて、教員がサポートできるようにすると良い。

②生活支援

現在の拘留されている人々の家族や、最近釈放された人々は生計を維持することが大変です。そうした人々への生活支援のアイデアとして、女性たちにはカタなどの縫物、スナックとして売れそうなものの商品化への支援、養鶏やヤギ、ウシの飼育などが提案されました。生活支援はなるべく元拘留者や現在拘留されている人の家族など、被害の大きい人に絞った効果的な支援を考えて

います。

③精神的なケア

今回の件でトラウマを抱える人たちが多く出ています。NRCのことが心配で自殺した人（アブドゥル作成のリストで37人）、不安を抱えて日常生活に支障をきたす人があつとをたちません。カウンセリングのためのマニュアルや、それを実施するための若者の育成が考えられます。

④元被拘留者への自助組織の結成

拘留されていた人々への人権侵害は重大ですが、今までのところほとんど対策がなされていません。まず集まってトラウマのカウンセリングをし、そのあとにそれぞれの個人に何が起つたのかの記録を作成すること、そしてしかるべき国連の人権機関等に報告することなどが提案されました。

ジュマ・ネットでは、ジャイ基金からの提案に基づき、今年支援を開始する予定で動き始めています。ぜひご支援をよろしくお願ひします。

地域の女性たちとのミーティング

